

# 中通り中山間高冷地でも製日本めん・製パン適性に優れる小麦の栽培は可能である（川俣町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 川俣町山木屋地区における小麦有望品種の高冷地適性の検討（川俣町）

担当者 佐藤越萌

## I 新技術の解説

### 1 要旨

中山間高冷地における営農再開後の作付け拡大が期待されることから、川俣町山木屋地区(灰色低地土)において、製日本めん・製パン適性に優れる小麦を栽培したところ、収量も品質も良好であった。

- (1) 2025年は平年と比較し気温は平年並、出穂期前後の降水量は多く、日照時間は少なく推移した(図1)。
- (2) 「さとのそら」、「ゆきちから」、「夏黄金」を2024年10月18日に10.0kg/10a播種したところ、幼穂形成期は3月中～下旬、出穂期は5月上～中旬、成熟期は6月下旬であった(表1)。
- (3) 精麦重は全品種で福島県小麦平均収量(令和元～4年産238.3kg/10a)を上回った(表2)。
- (4) 容積重は全品種で一等の最低限度(760g/L)を満たしており、等級は全品種で一等であった(表2)。

### 2 期待される効果

- (1) 中山間高冷地における小麦栽培の知見となることで、作付拡大が期待される。

### 3 活用上の留意点

- (1) 湿害により収量や品質が低下する恐れがあるため、排水不良ほ場では排水対策を十分に行う必要がある。
- (2) 赤かび病に感染すると収量や品質低下のほか、かび毒による出荷停止の恐れがあるため、防除を適切に実施する。

## II 具体的データ等

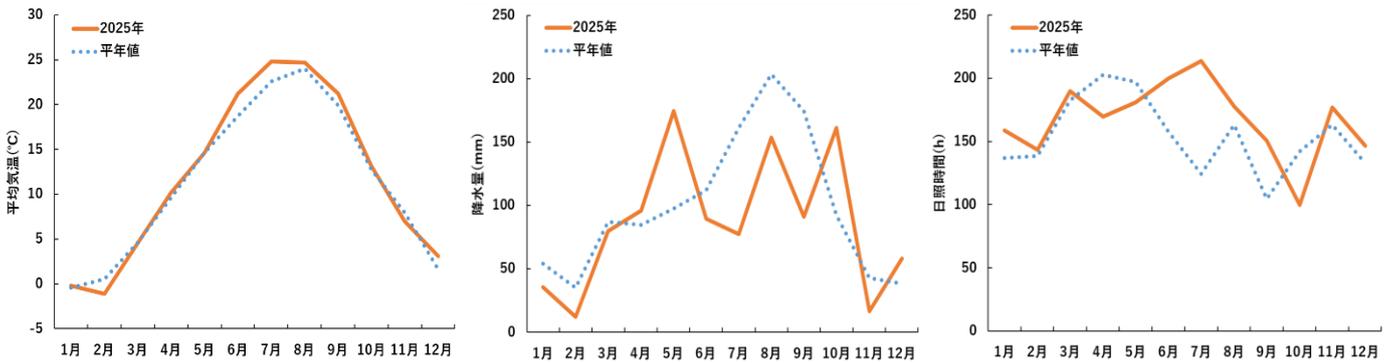


図1 2025年の気象図(飯館アメダス、平年値は2020~2024年)

表1 各品種の生育ステージ

品種	播種日 (月日)	幼穂形成期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	等級
さとのそら		2025/3/19	2025/5/6	2025/6/27	1下
ゆきちから	2024/10/18	2025/3/26	2025/5/12	2025/6/30	1中
夏黄金		2025/3/26	2025/5/11	2025/6/30	1下

※平均値(n=3)

※基肥(N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O成分 kg/10a)は「さとのそら」で3.0-10.0-10.0、「ゆきちから」及び「夏黄金」で10.0-10.0-10.0とし、土壌改良として苦土石灰 30.0kg/10a、放射性物質吸収抑制対策として塩化カリ 20.0 kg/10a を併せて施用した

※追肥 (N成分 kg/10a) は「さとのそら」で幼穂形成期に 10.0、「ゆきちから」及び「夏黄金」で幼穂形成期に 3.0、出穂期に 6.0 とした

表2 各品種の成熟期の生育及び収量等について

品種	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏	精麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)	<sup>137</sup> Cs濃度(Bq/kg)		等級
								精麦(DW)	土壌(DW)	
さとのそら	82.3	7.4	334.4	0.0	553.4	41.9	822.9	ND(0.8)	350.3	1下
ゆきちから	95.8	7.4	342.2	0.0	405.7	37.7	824.9	ND(0.8)	271.0	1中
夏黄金	90.0	7.4	320.0	0.0	426.9	38.8	840.1	ND(0.8)	307.3	1下

※平均値(n=3) ※倒伏：倒伏程度×倒伏面積 ※精麦重、千粒重及び容積重：縦目ふるい 2.4 mm、水分 12.5%換算

※精麦：縦目ふるい 2.4 mm ※ND()：NDは<sup>137</sup>Cs検出されず。()の数字は<sup>137</sup>Csの検出限界濃度

※等級：農産物検査機関(JA ぶくしま未来)による7段階評価(1上・1中・1下・2上・2中・2下・規格外)

## III その他

1 執筆者 佐藤越萌

2 実施期間 令和7年度

3 主な参考文献・資料

(1) 福島県農業総合センター, 国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター, 国立大学法人京都大学, 福島県における小麦「夏黄金」栽培マニュアル, 2024年7月